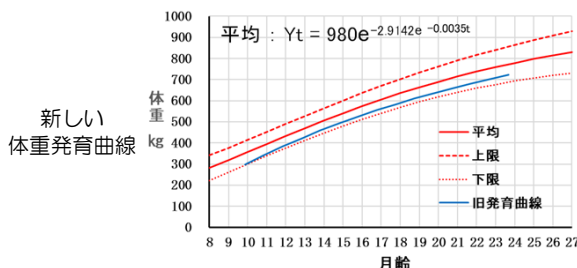
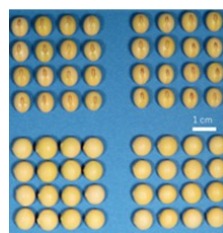


令和5年度取りまとめの研究成果を公表しました！

令和5年度（2023年度）の農業研究センターにおける研究成果のうち、生産現場に普及・定着を図る成果を「農業の新しい技術」として7課題、技術情報として農業技術指導員に提供する成果を「農業研究成果情報」として48課題を農業研究センターホームページに掲載しました。農研NOWでも「農業の新しい技術」を随時ご紹介していきます。

～農業の新しい技術～

- 1 大豆奨励品種「フクユタカA1号」の特性（農産園芸研究所）
- 2 アリウム「丹頂」1月出荷作型の収穫率が安定する栽培技術（農産園芸研究所）
- 3 褐毛和種去勢肥育牛の新しい体重発育曲線（畜産研究所）
- 4 黒毛和種種雄牛「美津福久」の選抜（畜産研究所）
- 5 褐毛和種種雄牛「第一弦球」の選抜（畜産研究所）
- 6 褐毛和種種雄牛「菊波泉ET」の選抜（畜産研究所）



黒毛和種種雄牛「美津福久」



褐毛和種種雄牛「第一弦球」



褐毛和種種雄牛「菊波泉ET」

- 7 モモ「さくひめ」のトンネルハウス栽培は5月下～6月上旬の早期出荷と高品質果実生産ができる（果樹研究所）

モモ「さくひめ」の果実



研究成果掲載ページ

目次

- P.2 R6公表 農業の新しい技術
大豆奨励品種「フクユタカA1号」の特性
- P.3 R6公表 農業の新しい技術
黒毛和種種雄牛「美津福久」
褐毛和種種雄牛「第一弦球」「菊波泉ET」の選抜
- P.4 試験研究の成果発表会開催
農産園芸研究所、生産環境研究所及びアグリシステム総合研究所合同成果発表会（8月7日開催）
果樹関係試験研究成果発表会（9月10日開催）





©2010熊本県くまモン

大豆奨励品種「フクユタカA1号」の特性

研究のねらい

熊本県で生産されている大豆のほとんどを占める「フクユタカ」は、加工適性に優れ、需要が大きいです。しかし、莢が裂けやすく、適期に収穫できないと収量低下の大きな要因となっています。そこで、農研機構で育成され、「フクユタカ」に難裂莢性を持たせた「フクユタカA1号」を奨励品種決定調査に供試し、本県における栽培特性を明らかにしましたのでご紹介します。

研究の成果

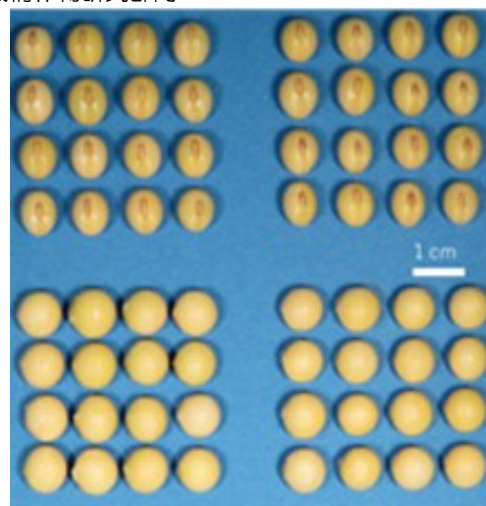
「フクユタカA1号」は、県内栽培において「フクユタカ」と比べて次のような特性を有することが明らかになりました。

- ①開花期や成熟期はほぼ同等で、主茎長はやや長く、最下着莢節位高はほぼ同等です。
- ②子実重はやや重く、タンパク質等の子実成分はほぼ同等です。
- ③成熟期後の莢の裂け（裂莢）が少なく、刈り遅れ等による収穫ロスの軽減により、実質的な収量の増加が期待できます。

写真提供：農研機構作物研究部門



フクユタカA1号 フクユタカ
写真1 草姿の様子



フクユタカA1号 フクユタカ
写真2 子実の様子

裂莢率(%)

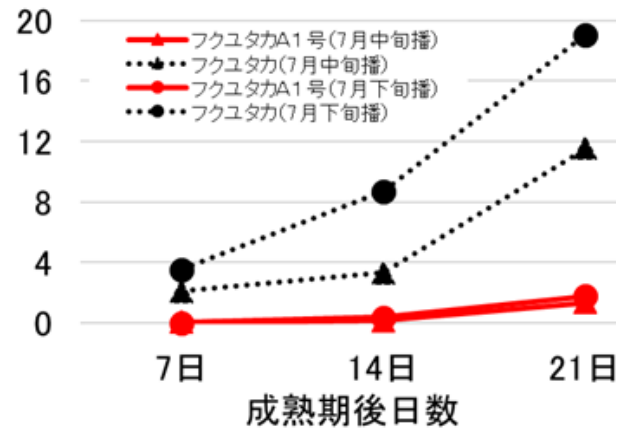


図1 成熟期後の裂莢率の推移

留意点

- (1) 遅播きすると子実重の低下や青立ちの発生が増える傾向があるため、適期播種に努め、基本技術を励行しましょう。
- (2) 難裂莢性を備えていますが、成熟期後の長期間のほ場放置は、しわ粒の増加等による品質低下を招くため、可能な限り適期収穫に努めましょう。



©2010熊本県くまモン

黒毛和種種雄牛「美津福久」の選抜

だいいちつるたま

きくなみいずみイーティー

褐毛和種種雄牛「第一弦球」、「菊波泉ET」の選抜

研究のねらい

牛肉の生産性・品質向上を図るため、優秀な種雄牛を選抜しましたのでご紹介します。

選抜した種雄牛

みつふくひさ

黒毛和種種雄牛「美津福久」



形質	程度	-1	0	1	2	3	4	程度	SBV
枝肉重量	小さい							大きい	0.71
ロース芯面積	小さい							大きい	2.03
ばらの厚さ	薄い							厚い	0.42
皮下脂肪	厚い							薄い	0.47
脂肪交雑	少ない							多い	3.08

本牛は、現場後代検定において、特に雌牛産子の成績に優れ、ロース芯面積が68.8cm²、歩留基準値が75.6といずれも歴代最高の成績です。また、脂肪交雑でも雌のBMSNo.が10.50、全体平均で9.07と歴代最高の成績であり、特に肉質の改良への貢献が期待されます。

だいいちつるたま

褐毛和種種雄牛「第一弦球」



形質	程度	-1	0	1	2	3	4	程度	SBV
枝肉重量	小さい							大きい	1.13
ロース芯面積	小さい							大きい	0.75
ばらの厚さ	薄い							厚い	3.44
皮下脂肪の厚さ	厚い							薄い	-1.80
脂肪交雑	少ない							多い	1.96

本牛は、現場後代検定では、全体平均でばらの厚さが8.6cm、脂肪交雑のBMSNo.が5.11といずれも歴代最高の成績であり、肉量、肉質両面の改良への貢献が期待されます。

きくなみいずみイーティー

褐毛和種種雄牛「菊波泉ET」



形質	程度	-1	0	1	2	3	4	程度	SBV
枝肉重量	小さい							大きい	3.48
ロース芯面積	小さい							大きい	4.27
ばらの厚さ	薄い							厚い	2.69
皮下脂肪の厚さ	厚い							薄い	0.95
脂肪交雑	少ない							多い	1.54

本牛は、現場後代検定では、枝肉重量の全体平均が500kgを超え、育種価評価における歴代順位は枝肉重量およびロース芯面積で第2位、ばらの厚さが第7位、歩留基準値が第6位と高い能力を有し、肉量の改良への貢献が期待されます。

最新の成果を広く周知し、現場に活かす！成果発表会の開催

当センターでは、県農業試験研究推進構想に基づき、「くまもとの魅力を発信できる新品種」の開発や選定を行い、「稼げる農業」を実現するための革新的な生産技術開発や「環境にやさしい農業」を推進する技術開発に取り組んでいます。

成果発表会は、最新の研究成果を広く関係者に周知し、生産現場の指導、栽培に活かすことを目的に開催しています。

農産園芸研究所、生産環境研究所及びアグリシステム総合研究所合同成果発表会

令和6年8月7日、農業研究センター本所（合志市）とアグリシステム総合研究所（八代市）をオンラインでつなぎ、農産園芸研究所、生産環境研究所及びアグリシステム総合研究所の合同成果発表会を開催しました。大豆「フクユタカA1号」の特性やドローン散布による水稲の病害虫防除など、作物、野菜、花きの生産技術について報告し、参加者からは研究成果の活用方法等について質問が出され、活発な意見交換の場となりました。



会場の様子



ポスター展示



発表の様子



©2010熊本県くまモン

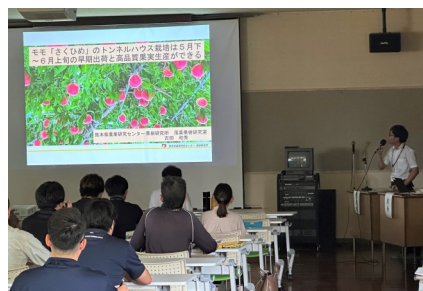


果樹関係試験研究成果発表会

令和6年9月10日、果樹研究所（宇城市）において、果樹関係の試験研究成果発表会を行い、果樹研究所、球磨農業研究所、天草農業研究所において研究された常緑果樹の5課題、落葉果樹の3課題を報告しました。その後の現地検討会では、新型ドローンの実演、高糖度温州ミカンの栽培技術の展示、カンキツ「熊本EC12」やナシ「甘太」の生育状況、モモ「さくひめ」のトンネルハウス栽培について説明を行いました。



会場の様子



発表の様子



無加温ヒリュウ台の「肥の豊」



新型ドローンの実演



©2010熊本県くまモン

←収穫時期を迎えた「甘太」

☆今後の成果発表会予定☆

11/14 畜産関係試験研究業績発表会
(場所：農業研究センター講堂)

KUMAMOTO Pref.
農業研究センター

本紙に関するお問い合わせは、企画調整部
企画情報課までご連絡ください。

〒861-1113 合志市栄3801

tel 096-248-6411 fax 096-248-7039

E-mail noukenkikaku28@pref.kumamoto.lg.jp



ホームページ



X